

◆17番（三宅真里議員） 国道134号線の下水道管について伺います。

2009年の台風18号のときに、国道134号線が陥没しました。幸い、下水道管に影響は及びませんでした。すぐそばを実は管が走ってしまっていて、際どいところでした。稲村ガ崎のあたりは、地下2メートルほどの深さに管が埋設してあるとお聞きしています。これは、海面より高い位置にあります。津波対策は当然必要です。

また、一度大波の影響で道路が陥没したことがある、そういった地域ですから、早急に対策を講じる必要があります。下水道の長寿命化計画をお持ちであるということは存じ上げています。建設後、42、3年経過していることもあり、優先的に取り組むべきエリアであると考えます。私どもは、修繕ということではなくて、災害対策としても、もっと深いところにやりかえる必要があると考えておりますが、市のお考えを伺います。

◎山内廣行 都市整備部長 由比ガ浜の中部ポンプ場から七里ガ浜ポンプ場までの国道134号線に埋設されている下水道管、これは鎌倉処理区の約7割の汚水を七里ガ浜浄化センターに導いている重要な下水道の幹線管渠であります。

しかし、今、お話にありましたとおり、築造後、約40年経過し、かなり老朽化しているということ、さらに深さ2メートルと比較的浅い埋設のため、地震や津波による影響を受けやすい状況にあります。

下水道管の交換に当たりましては、現在、使用中の汚水管はとめることができないと、そういう状況がございますから、新たに別の管路を敷設していくこととなります。その場合は、地震や津波による影響を受けにくくするため、今、御提案ありました、さらに深い位置に敷設していく必要があると考えております。そういう中で、下水道は本当に市民生活に欠かせない重要なインフラであると考えておりますことから、現在、実施の可能性について、協議・調整を進めているところでございます。

◆17番（三宅真里議員） 大変たくさんの汚水がそこに集中して流れていっているということで、これは市民生活に直接結びつくものです。これは長寿命化計画があると思いますけれども、先に、先にとということで対策をぜひ進めていただきたいというふうに、また改めてお願いをしておきます。

まして、一部が民有地に入っているということもございます。今、部長が、これは大切なことだというふうにお答えいただきましたが、市長にも同じことをお

尋ねたいと思いますが、いかがでしょうか。このままでは、津波どころか、台風が来ても、もしかしたら持っていかれるかもしれないんです。来年から長寿命化計画の中で、恐らく見直しというか、計画をお立ていただくことになると思いますけれども、**早急に、この国道 134 号線のところの下水管のやり直しということを進めていただきたい**と思いますが、お考えをお聞きしたいと思います。

◎**松尾崇 市長** 必要不可欠のインフラであると、今、部長からも答弁させていただきましたが、私としてもそういう意味で、**できるだけ早い対応をとっていく必要がある**というふうに考えています。

現在、来年から、来年のローリングを行います実施計画の中で、それを位置づけていくように検討を進めているところでございますので、その中でもできる限り早くのスケジュールをお示しできればというふうに考えています。